

令和7年度 天下茶屋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 天下茶屋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	73	53	51	6.2	7.0	学校	463
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	73	61.1	50.3	55.1	42.3	50.4	5.9	6.9	9.6	8.7	5.6
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	59	57.5	37.5	50.0	42.4	39.9	10.9	8.9	11.7	6.3	10.9
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	76	51.3	44.1	46.1	47.9	51.1	13.9	7.5	10.1	5.0	6.7
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.3	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	69	116.6	104.2	148.0	99.4
10月16日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	29.67	27.55	39.82	52.28	73.78		8.24	199.85	20.12	40.32
2年 女子	学校	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	22.75	24.29	45.38	49.04	54.24		9.23	169.78	12.00	48.59

令和7年度 天下茶屋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

平均正答率において国語は全国平均を下回っている。全国平均と比べると-1.3ポイントである。数学は全国平均を上回っており、+2.7ポイントであった。特に国語では「書くこと」の領域において平均正答率が49.9%で全国平均正答率を2.9ポイント下回り、数学では「データの活用」の領域において平均正答率が55.7%で全国平均正答率を2.9ポイント下回っているため今後の課題である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

平均正答率で大阪府平均と比べると国語-3.1ポイント、社会-0.9ポイント、理科-3.7ポイント、英語-2.8ポイントで大阪府平均を下回っていたが、数学は+1.2ポイントで大阪府平均を上回ることができた。平均無回答率については、社会科において大阪府平均より高いので今後の課題である。

○中学生チャレンジテスト(2年生)

平均正答率で大阪府平均と比べると国語-7ポイント、社会-6.8ポイント、数学-5ポイント、理科-4.3ポイント、英語-11.9ポイントで、大阪府平均をすべての教科で下回っていた。また、平均無回答率については数学以外のすべての教科において大阪府平均より高いので今後の課題である。

○中学生チャレンジテスト・plus(1年生)

平均正答率で大阪府平均と比べると国語-11.8ポイント、数学-10.6ポイント、英語-14.1ポイントで、大阪府平均を3教科とも下回っていた。plusについては、社会-14.2ポイント、理科-15.1ポイントで大阪市平均を下回っていた。全教科において基礎学力をつけていかなければならない。

○大阪市英語力調査(GTEC)

大阪市平均スコアを読むこと、聞くことは下回り、書くこと、話すことに関するスコアは、上回っていた。特に、大阪市平均スコアと比べ、聞くことが-6ポイントであったので今後の課題である。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

体力合計点において、男子では全国平均より1.88ポイント上回り、女子では全国平均より1.1ポイント下回った。男子の調査項目では、測定した8項目中3項目において全国平均を上回り、女子の調査項目でも、測定した8項目中3項目において全国平均を上回った。

【今後に向けて】

◇教科指導力の向上や生徒の学習環境の整備に取り組む。

◇校内研修を持続発展させ、学習規律の確立、教科指導の研究をさらに進めることによって、生徒の学力向上に結び付ける。

◇習熟度別少人数授業やTTを一層工夫し、基礎・基本の徹底とともに、発展的学習の充実を図る。

◇オンライン授業等のICT学習環境を活用した教育活動を推進し、生徒の興味・関心と学力の向上につなげる取り組みを実践する。

◇小中連携を強化し、基礎・基本となる学力の向上と小中の円滑な接続を図る。

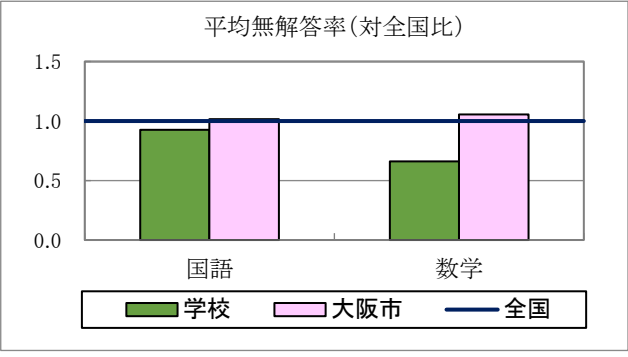
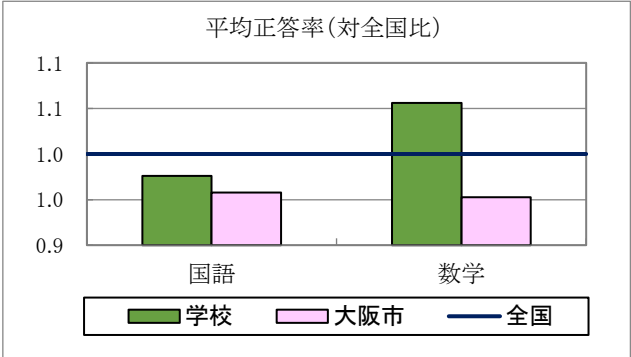
令和7年度 天下茶屋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	51
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

平均無解答率(%)	
国語	数学
6.2	7.0
6.8	11.2
6.7	10.6

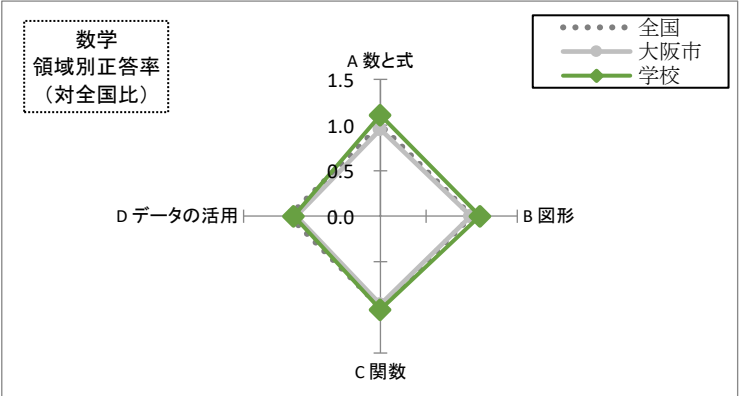
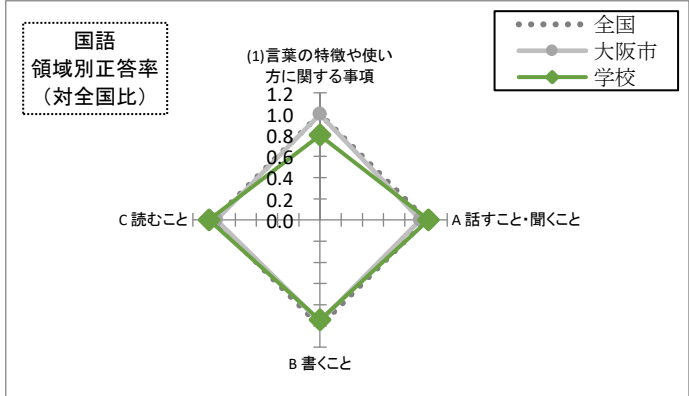
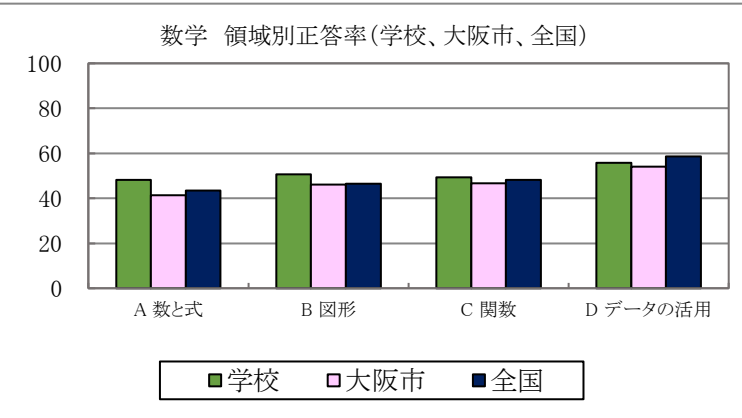
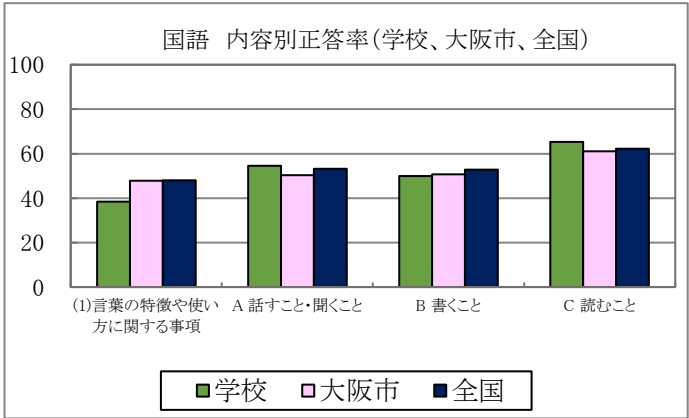


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	38.4	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	54.5	50.4	53.2
B 書くこと	5	49.9	50.6	52.8
C 読むこと	3	65.3	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	48.2	41.4	43.5
B 図形	4	50.7	46.1	46.5
C 関数	3	49.3	46.6	48.2
D データの活用	3	55.7	54.0	58.6

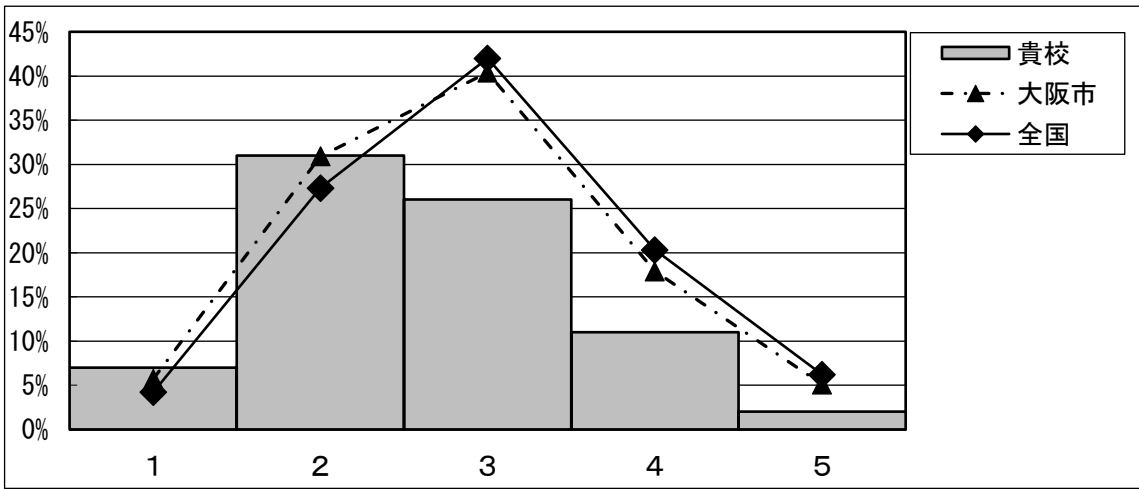
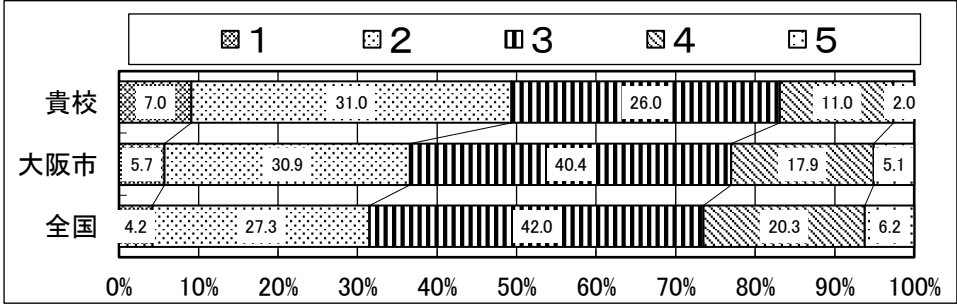


令和7年度 天下茶屋中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	463
大阪市	489
全国	503



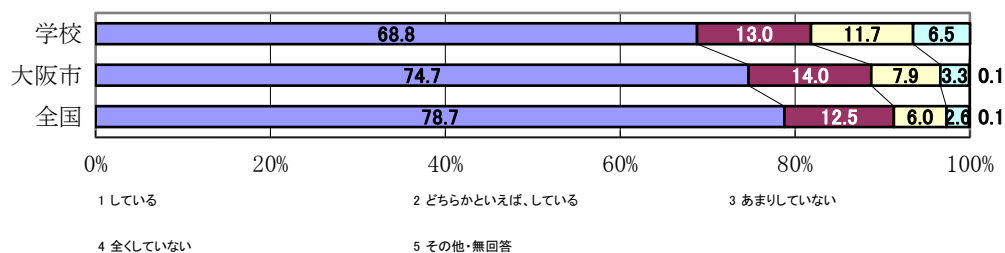
令和7年度 天下茶屋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

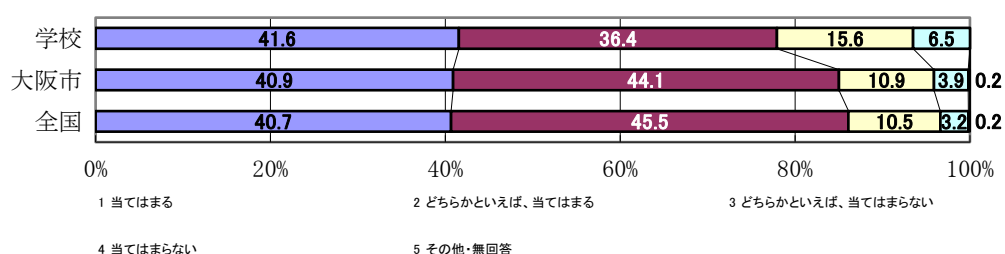
□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号
質問事項

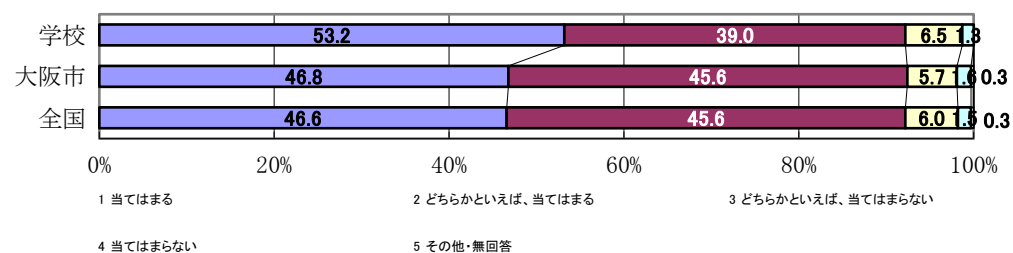
1
朝食を毎日食べていますか



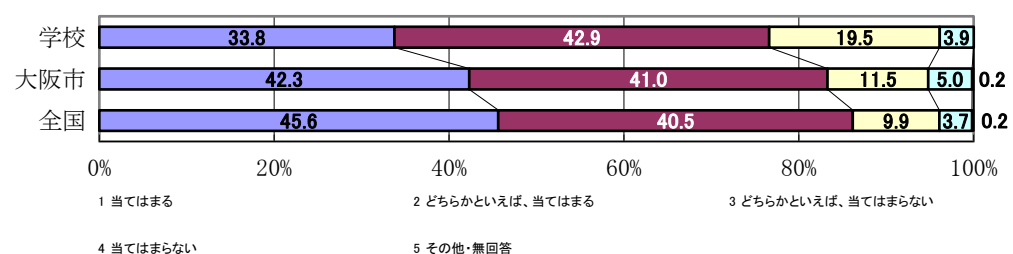
5
自分には、よいところがあると思いますか



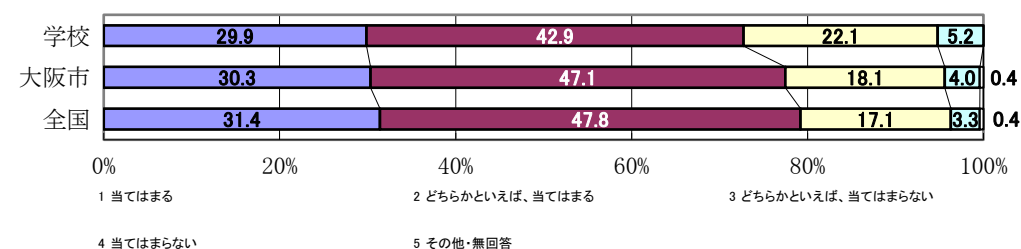
6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



12
学校に行くのは楽しいと思いますか



13
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



令和7年度 天下茶屋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

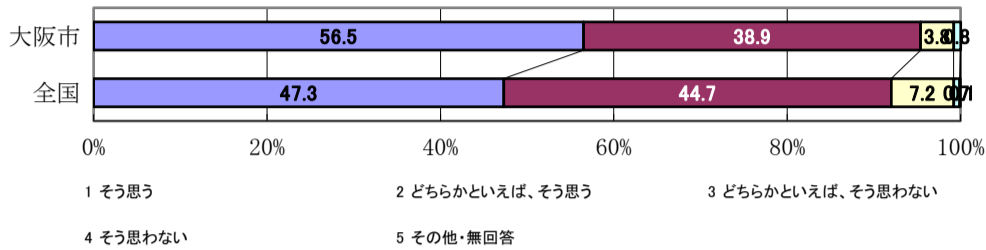
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

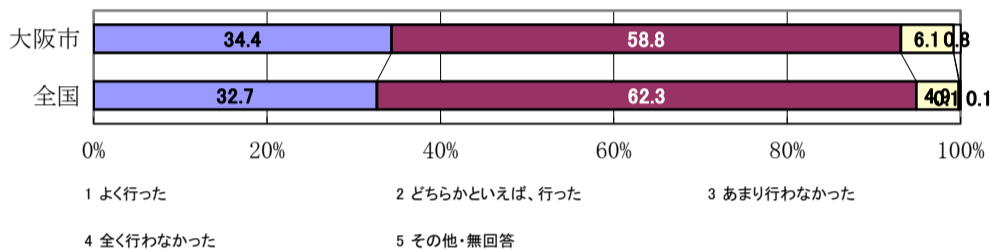
学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

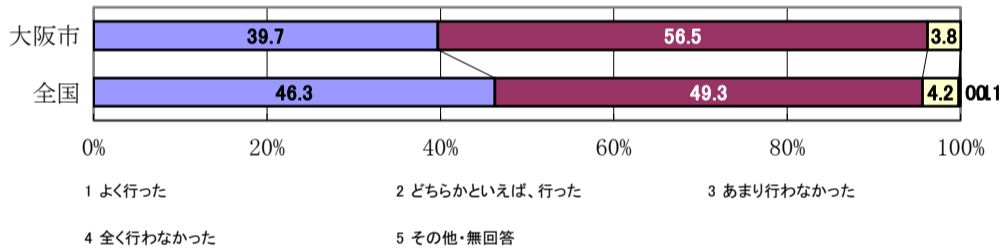
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



47

調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか

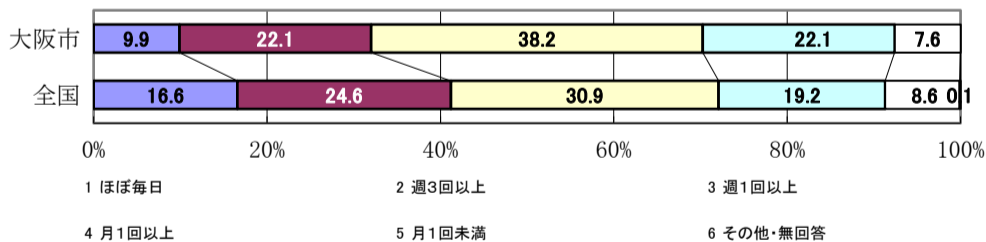
学校 「よく行った」を選択



63

調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択



66

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるよりにしていますか

学校 「時々持ち帰って、時々利用させている」を選択

